



一般社団法人

日本パーキングビジネス協会だより

新しい技術の動向について広く情報収集に努め、
また、“美しく、快適で、機能的な”駐車場づくりを目的に
会員各社協力のもと各社の事業発展に寄与します

事務局：〒 103-0016 東京都中央区日本橋小網町 7-2
TEL 03-3663-6282 FAX 03-3667-0057
URL <http://www.gia-jpb.jp/>
E-mail jpb3533@gia-jpb.jp
スマートフォン用サイト <http://www.gia-jpb.jp/sp/>

平成26年度第3回理事会 開催報告

●開催日時

平成26年7月15日(火)13時30分～15時

●開催場所

サイカパーキング(株)本社7階「大会議室」
(東京都中央区日本橋小網町7-2 ペンてるビル)

●報告事項

1. ロードマップ進捗状況報告
2. 行事報告(第1回本部研修会)
3. 月次会計報告

●協議事項及び決議事項

1. 各委員会の方向付けについて

a. 安全検討委員会

「今秋、駐車場法及び駐車場法施行令に準拠した駐車場について会員と知識を共有するとともに、平面駐車場の質の向上を目指す」という方向性の確認がなされた。

b. 表示検討委員会

現在、研修会でガイドラインの内容について会員に徹底を図っており、既に行われた九州支部、本部の研修会での反響が報告された。

加えて、消費者庁からも「景品表示法」の観点から注視されていることが報告された。

c. ブランディング委員会

ロゴマークの募集状況、パーキンググランプリの方向性、コミュニケーションWGからの報告が行われた。

2. 直近の行事について

a. 第1回関西支部研修会

(右記)

b. 海外研修会

ヨーロッパの駐車場・駐輪場視察について、日程案が呈示された。

3. 精算機荒し被害への対応について

最近、全国的に精算機荒らしが増大しており、協会と

して情報収集に努めることとなった。

第1回関西支部研修会 開催報告

●開催日時

平成26年7月24日(木)13時～18時

●開催場所

大阪科学技術センター 405号室
(大阪市西区靱本町1-8-4)

●内容

〈第一部 商品研修会〉

①IT化による駐車場マーケティング

CouParkの活用による稼働率アップ

〔講師：(株)IMJ、(株)アイテック〕

②水銀灯に替わる超省エネ・長寿命ライト

誘導プラズマ式「eneBright」のご提案

〔講師：(株)TOSMO〕

・スマホを使った駐車場の稼働率アップの提案や、LEDと同等以上の省エネ・長寿命の照明灯の提案がなされた。

〈第二部 表示ガイドライン勉強会〉

○説明及び討論会

(講師：表示検討委員会・大槻委員長)

・表示ガイドライン公表前の徹底がなされ、いよいよ実行フェーズに移ることとなった。



研修会風景



平成26年 飲酒運転させないTOKYOキャンペーン(夏季) お笑いタレント・友近氏がキャンペーン隊長で登場!

夏の行楽シーズンをひかえた7月1日(火)、東京・ベルサール秋葉原にて、飲酒運転根絶を呼びかける「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」〔7月1日(火)～7日(月)〕のオープニングイベントが行われた。冒頭、ゲストの友近氏が警察官の制服に身を包んで登場し、キャンペーン隊長に任命された。

続いて、主催者を代表して警視庁交通部長 廣田耕一氏が挨拶を行った。

「今年で9年目を迎えるこのTOKYOキャンペーンですが、この間、官民をあげた飲酒運転根絶の取り組みのおかげで、都内の飲酒運転による交通事故はおよそ4分の1に減少しました。しかし残念なことに、ここ数年はやや下げ止まり傾向にあり、毎年200件前後の飲酒による交通事故が発生しています。飲酒運転を根絶するためには、都民一人ひとりが飲酒運転の危険性や悪質性、それによって引き起こされる結果の重大さをしっかりと認識して、「飲酒運転をしない、させない」という飲酒運転根絶の輪を広げることが重要です。「飲んだら乗らない、クルマを乗る人にはお酒を飲ませない、与えない」といった3つの原則を守る取り組みを、家族や職場、地域に広めていっていただきたい」と強く呼びかけた。

第二部の交通総務課職員による交通安全教室では、友近氏が警視庁のマスコットキャラクター・ピーポくんとともに飲酒運転の危険性について解説した。



お笑いタレント・友近氏がキャンペーン隊長に任命された

飲酒運転による交通事故がピークだった2000年の発生件数は、全国でなんと2万6,000件以上。その後の取り組みで年々減少し、昨年は4,345件まで減ったが、ここ数年は下げ止まりの状態が続いている。これを受けて友近氏は、「自分は見つからない、自分に限っては、という人が多いですからね。一人ひとりの心がけが大事」と警鐘した。

また、飲酒の酩酊状態を疑似体験できるゴーグルを着用すると、「物が二重に見えるし、距離感がつかめない」とピーポくんと握手にもとまどい、飲酒運転の恐ろしさを身をもって訴えかけた。

教室の最後には、飲酒運転で事故を起こし尊い命を奪ってしまった加害者の手記を読み上げて、「自分だけでなく、周りの人、家族をも不幸にしてしまう。一瞬の自分の間違った判断で事故を起こしてしまう。今日のことを忘れずに、自分自身が意識を高めて気をつけるべきだと思います」と妙な面持ちで呼びかけた。

イベントの最後では友近氏や吉本興業のタレントからキャンペーンのオリジナルグッズが配られ、盛況のうちに幕を閉じた。

PP



主催者代表の警視庁交通部長
廣田耕一氏



交通安全教室では、友近氏が特殊なゴーグルで酩酊状態を疑似体験した